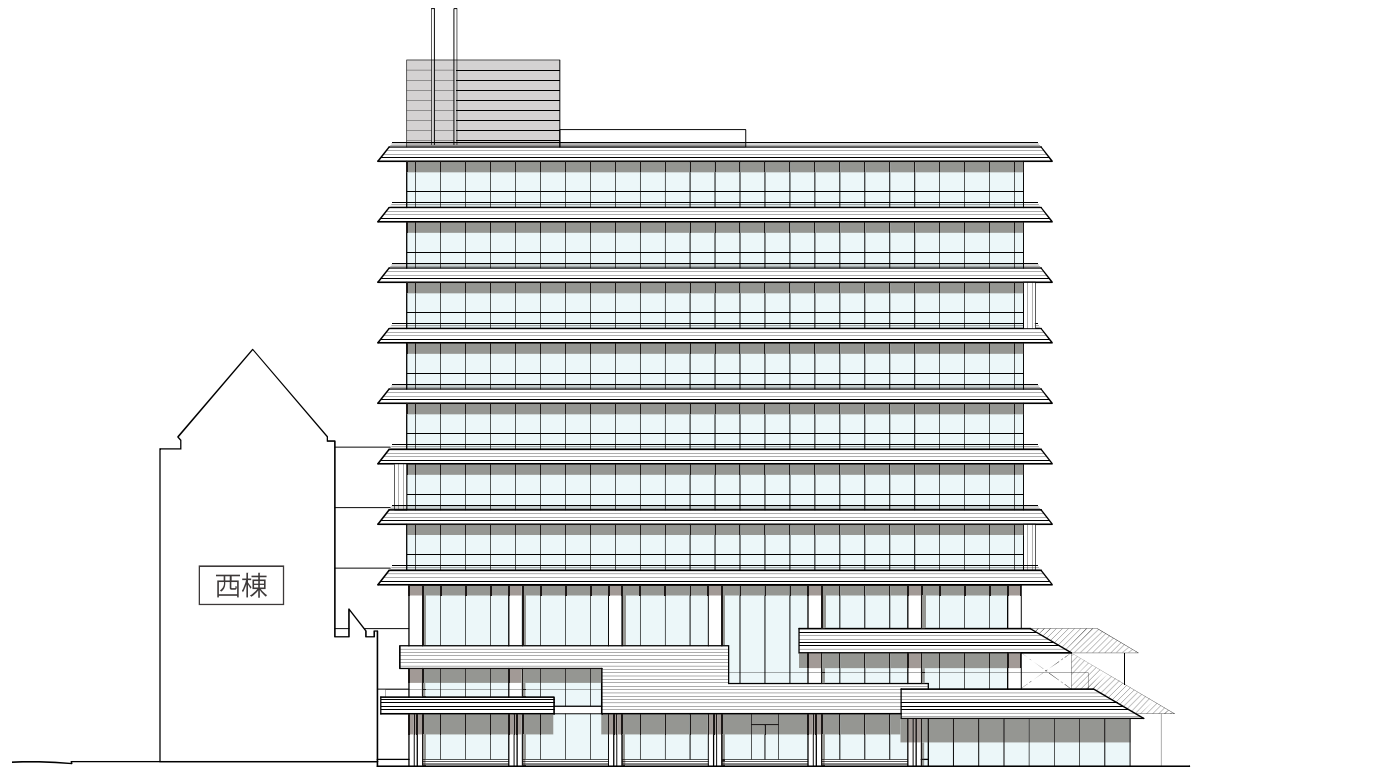
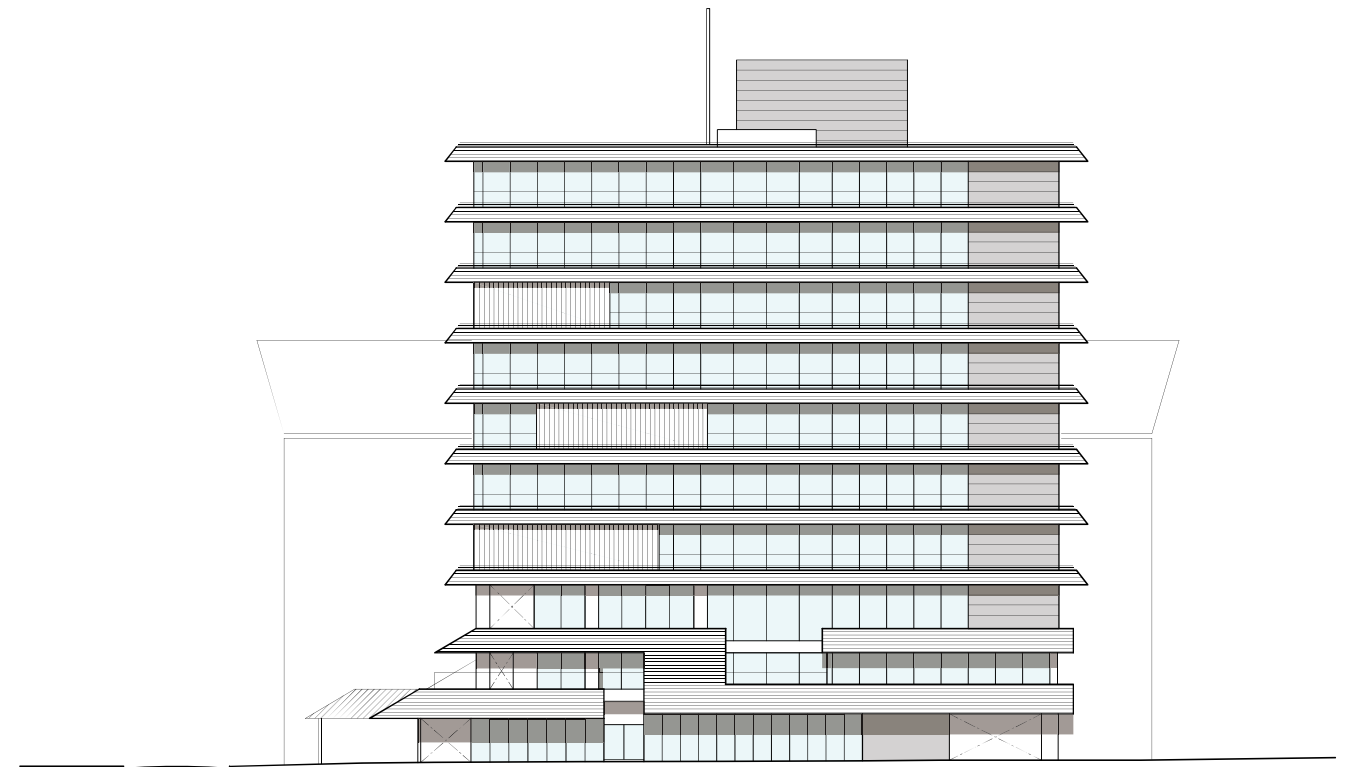


3-3. 立面計画



【南立面】



【東立面】

草加の歴史をつなげる庁舎

- ・今様・草加宿の歴史的景観を大切にし、かつての宿場町としての趣を感じる施設デザインとします。
- ・旧日光街道に対し、ギャラリーや喫茶コーナーなどの市民活動スペースからなる「まちの縁側」を配置し、これらを開放的な設えとすることで、賑わいのあふれる街並みを再生します。
- ・外装仕上げには、日本の伝統的建築物に見られる軒や格子（ルーバー）を設け、天井や内装材には木材を活用することで、草加宿に相応しい市庁舎を目指します。

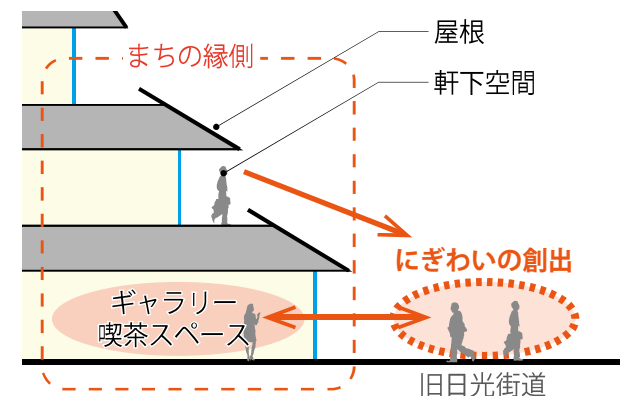


【草加宿の街並み】

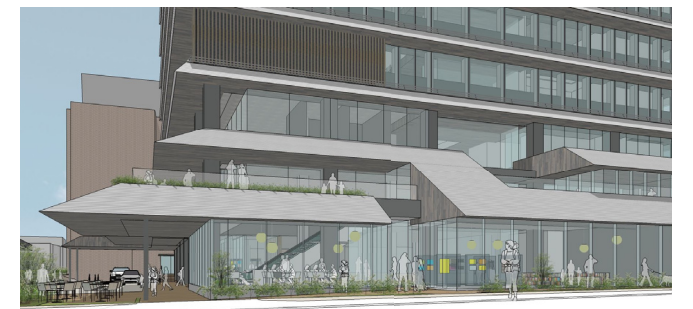


平入りの屋根が連続する「まちの縁側」

- ・旧日光街道に残る歴史的建造物に見られる、存在感のある屋根とその軒下空間をデザインモチーフとして外観デザインに取り入れ、草加市における新たなシンボルとなる新庁舎を計画します。
- ・1,2階の市民活動スペースとなる「まちの縁側」は、関東町家らしい平入りの屋根が連続する草加らしさを感じる外観デザインとします。



【まちの縁側の断面イメージ】

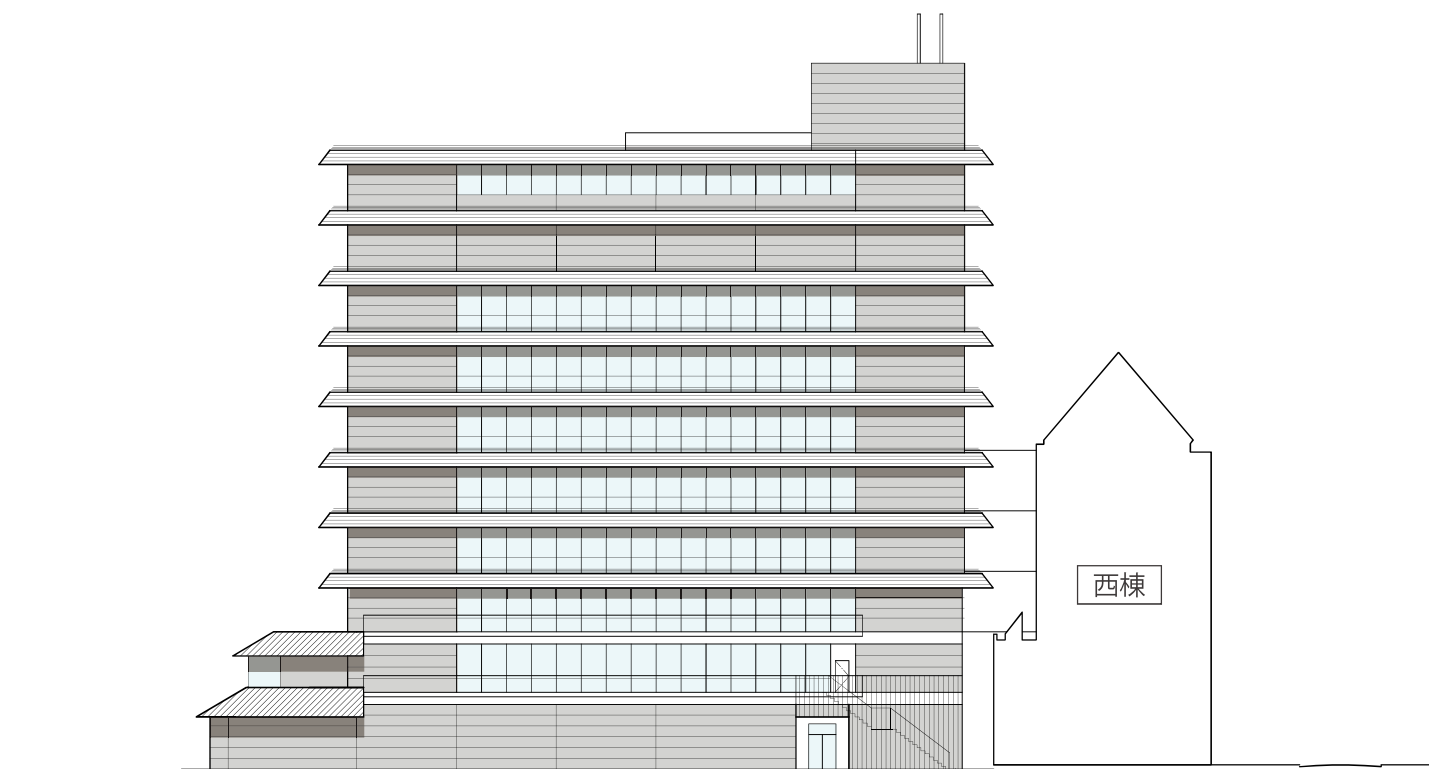


【にぎわいを創出する「まちの縁側」イメージ】

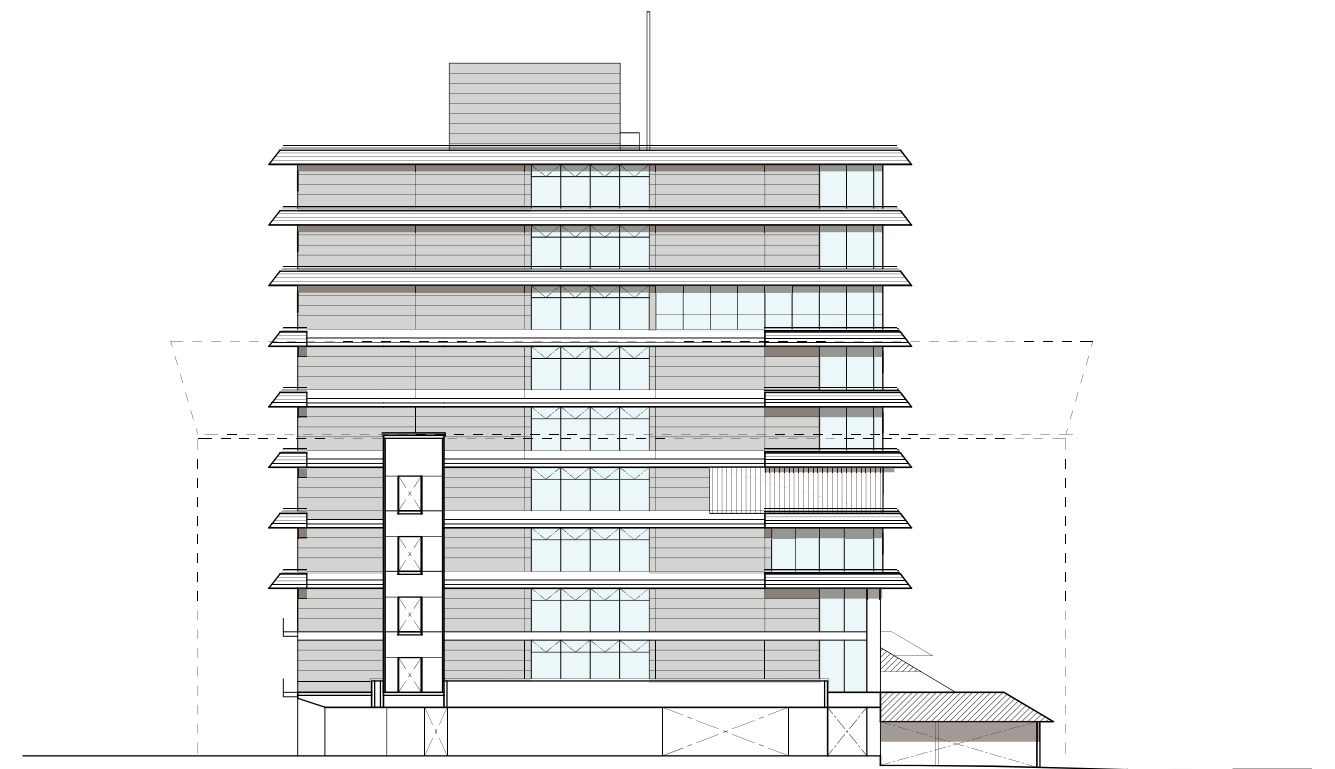


【人々を迎え入れる「まちの縁側」イメージ】

3-3. 立面計画



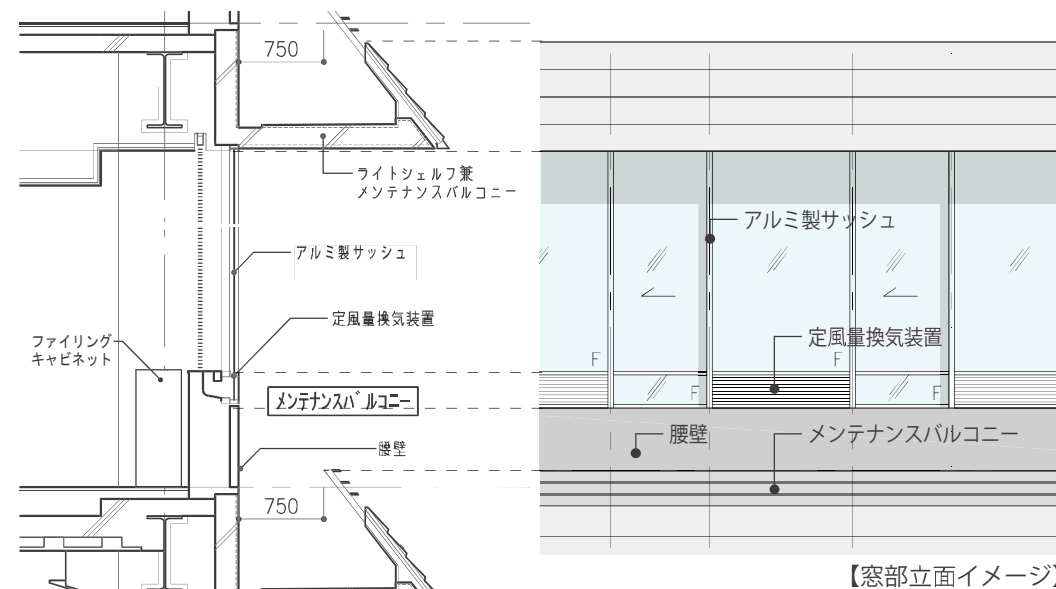
【北立面】



【西立面】

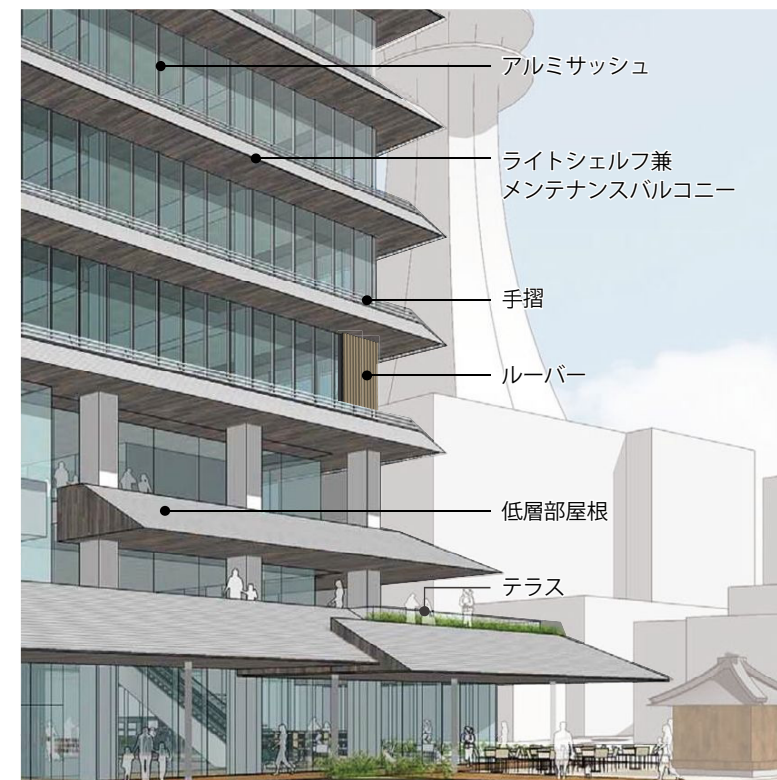
低層部のデザインを引き立てる機能的な基準階

- ・低層部の個性あるデザインを強調するため、4階から上部の基準階における外観デザインは、機能性を重視したシンプルなデザインとします。
- ・ガラスの清掃や、外壁のメンテナンス、地震時の破損したガラスの落下防止や大雪の際の落雪防止など、様々な機能を有するメンテナンスバルコニーを建物の外周に設けます。
- ・メンテナンスバルコニーは、執務室への直射光を遮るライトシェルフ（庇）としての機能を持たせ、空調負荷の低減を図ります



【窓部立面イメージ】

草加市らしい佇まいを感じる外部デザイン



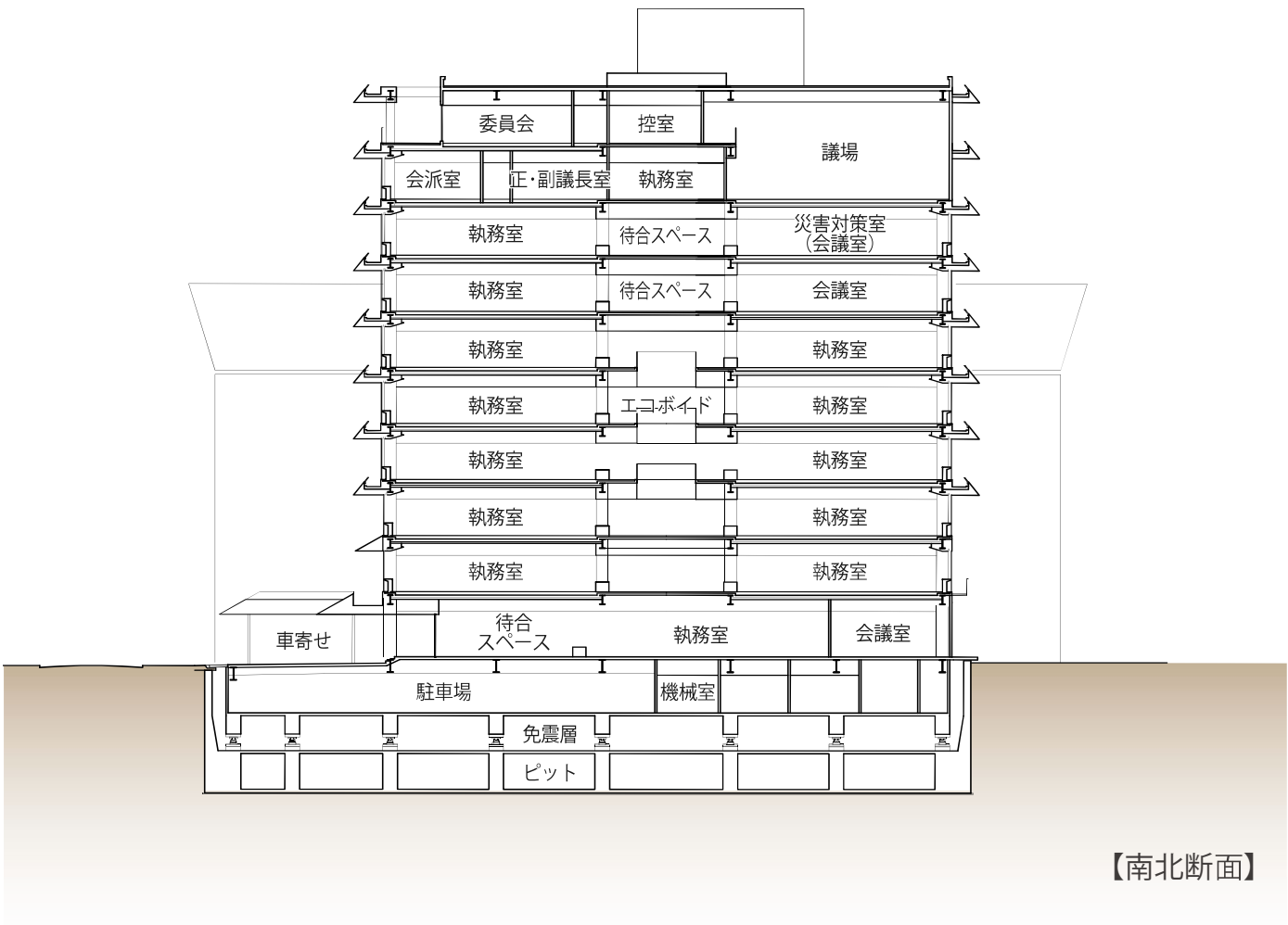
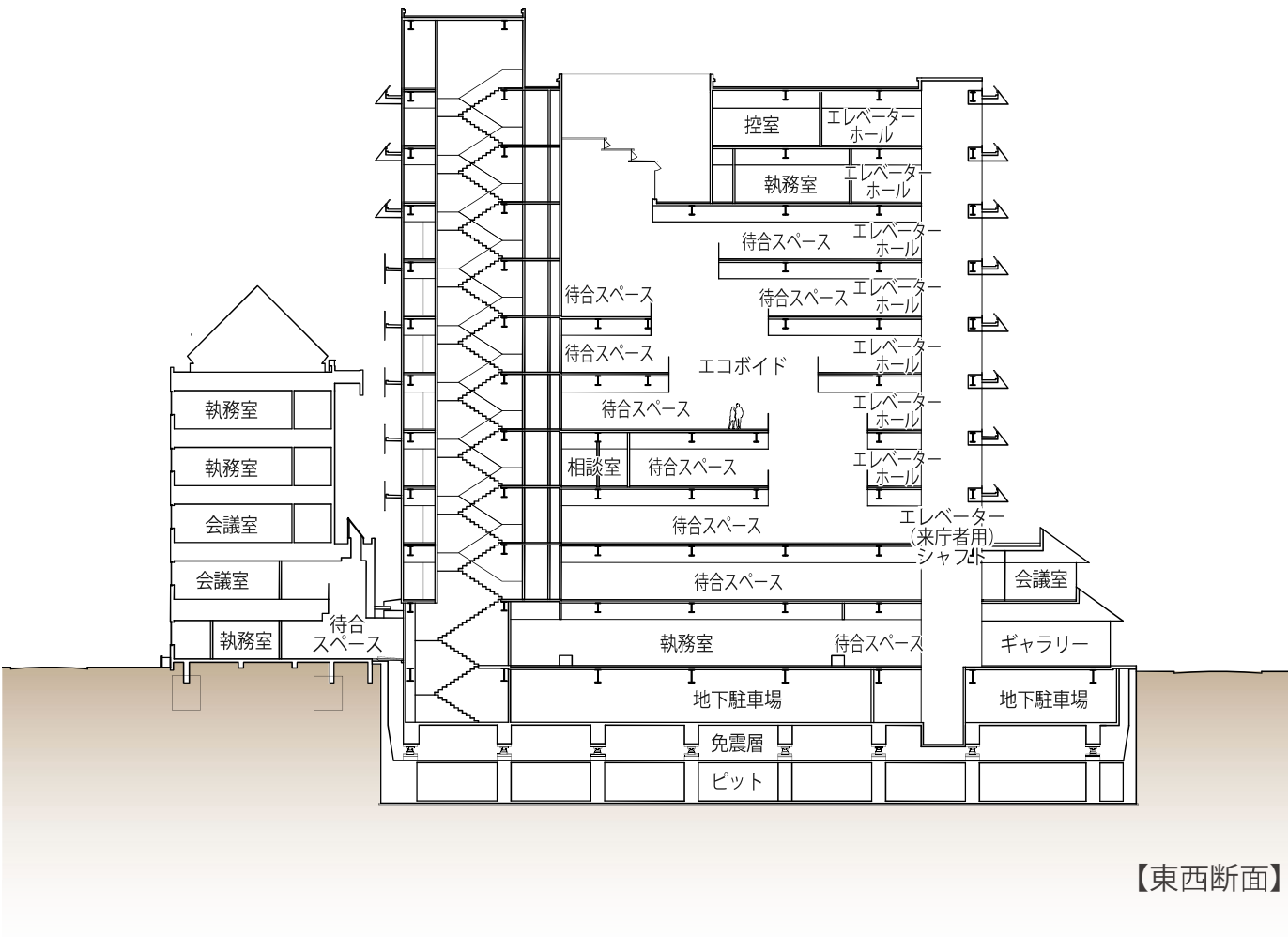
色彩計画の考え方

- ・施設の外装仕上げは、草加市景観計画における草加市の風土色を念頭に、伝統的な街並みの色に調和した品格と趣のある色彩計画とします。
- ・木目調のルーバー（格子）など、自然の色彩を取り入れることで、訪れる市民が温かみを感じることを目指します。

2.5Y 9/2	10Y 8/6	7.5PB 8/4	2.5Y 6/2	2.5Y 3/2	2.5Y 3/6
2.5Y 8.5/6	5YR 9/2	7.5P 9/2	2.5Y 7/4	10YR 3/6	10YR 2/4
5Y 8.5/2	10YR 8/8		10YR 4/4	2.5GY 3/4	7.5YR 2/4
5Y 9/4			5Y 4/6		
N9.5	N7.75	N6	N4.25	N2.5	N0.75
N9.25	N7.5	N5.75	N4	N2.25	N0.5
N9	N7.25	N5.5	N3.75	N2	
N8.75	N7	N5.25	N3.5	N1.75	
N8.5	N6.75	N5	N3.25	N1.5	
N8.25	N6.5	N4.75	N3	N1.25	
N8	N6.25	N4.5	N2.75	N1	

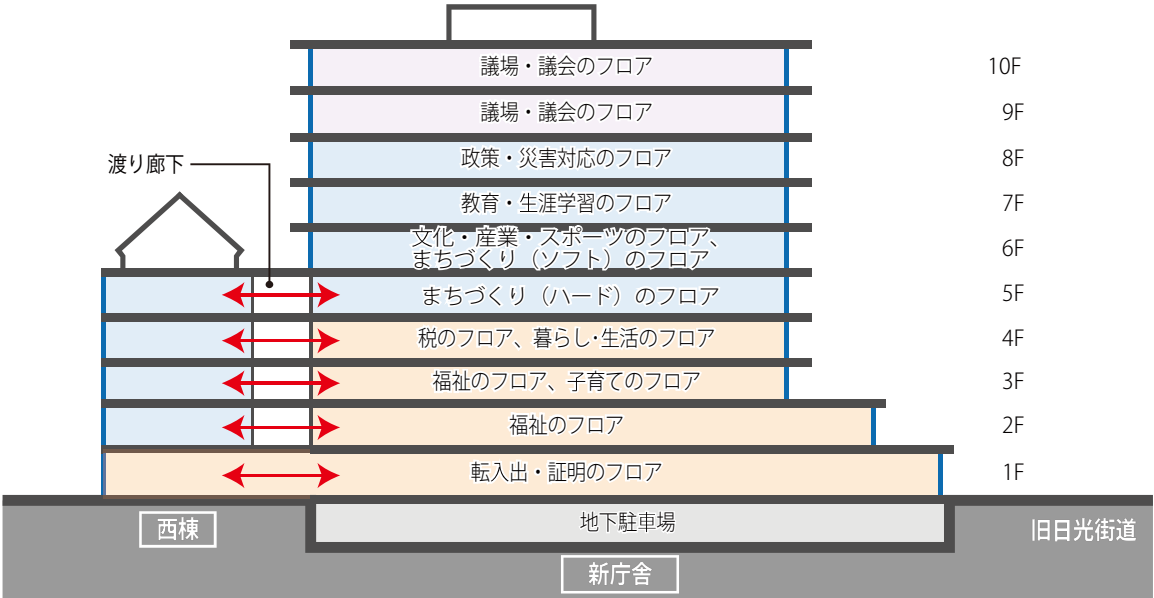
【使用する色味の例草加市の風土色 カラーチャートより】

3-4. 断面計画



明快な階構成

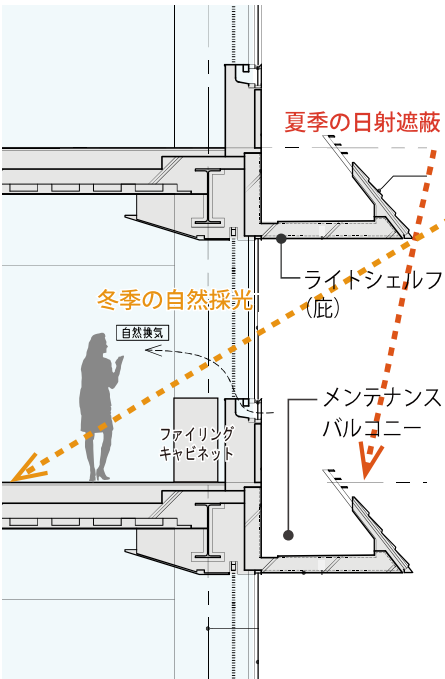
- 多くの市民が利用する窓口は、1階から4階の低層階に配置し、比較的、市民の利用が少ない窓口は上層階や西棟に配置します。また、市民交流スペースは、利用しやすい1、2階のロビーと連続した位置に配置します。
- 8階には、市長室や災害対策本部、危機管理課を配置し、迅速な災害対応の行える防災エリアとして位置づけます。
- 9階と10階には、議場、会派室、委員会室などの議会関連機能を集約します。
- 水害へのリスクに配慮し、中央監視室や電気室、飲料水用の水槽などの重要機能を2階から上部の階に設置します。



【明快な階構成】

環境と安全面への配慮

- 基準階の外壁面に設置したライトシェルフにより、執務室への直射光を遮ることで日射による熱負荷を低減します。
- ライトシェルフは、ガラス清掃やメンテナンスに利用できるバルコニーとして活用できる構造とします。また、地震や強風時に万が一ガラス破損した場合には、下層へのガラスの落下を防止することができます。
- 大きな地震の揺れにより、書棚やキャスター付き什器が移動した際のガラスへの衝突を防ぐため、開口部の下部には腰壁を設けます。
- 腰壁には、強風時や雨天時にも自然換気が行える定風量換気装置を設けます。



【窓回り断面図】

3-5. 外構・植栽計画

外構・植栽計画の考え方

- ・だれもが安心して訪れることができるよう、滑りにくく、水はけのよい舗装とし、できるだけ段差を設けない計画とすることで、障がい者や高年者の方でも訪れやすい庁舎を目指します。
- ・敷地外周部を積極的に緑化し、歩行者にとって心地良い歩道空間とします。
- ・まちの縁側に相応しい、にぎわい創出に寄与する外構・植栽計画とします。

緑化計画

緑化基準	緑化計画届出制度
対象敷地面積	1,000㎡以上（本計画敷地面積4,844.46㎡）
必要緑化面積	敷地面積×（1-建蔽率）×0.5 =242.23㎡
必要接道緑化長さ	接道部の長さ×0.5 =約101.6m
必要高木植栽本数	樹木による緑化面積÷20 =約13本 （緑化面積全てを樹木で緑化した場合）

- ・上記の緑化基準を満たす植栽計画とします。

周辺の環境に配慮した植栽計画

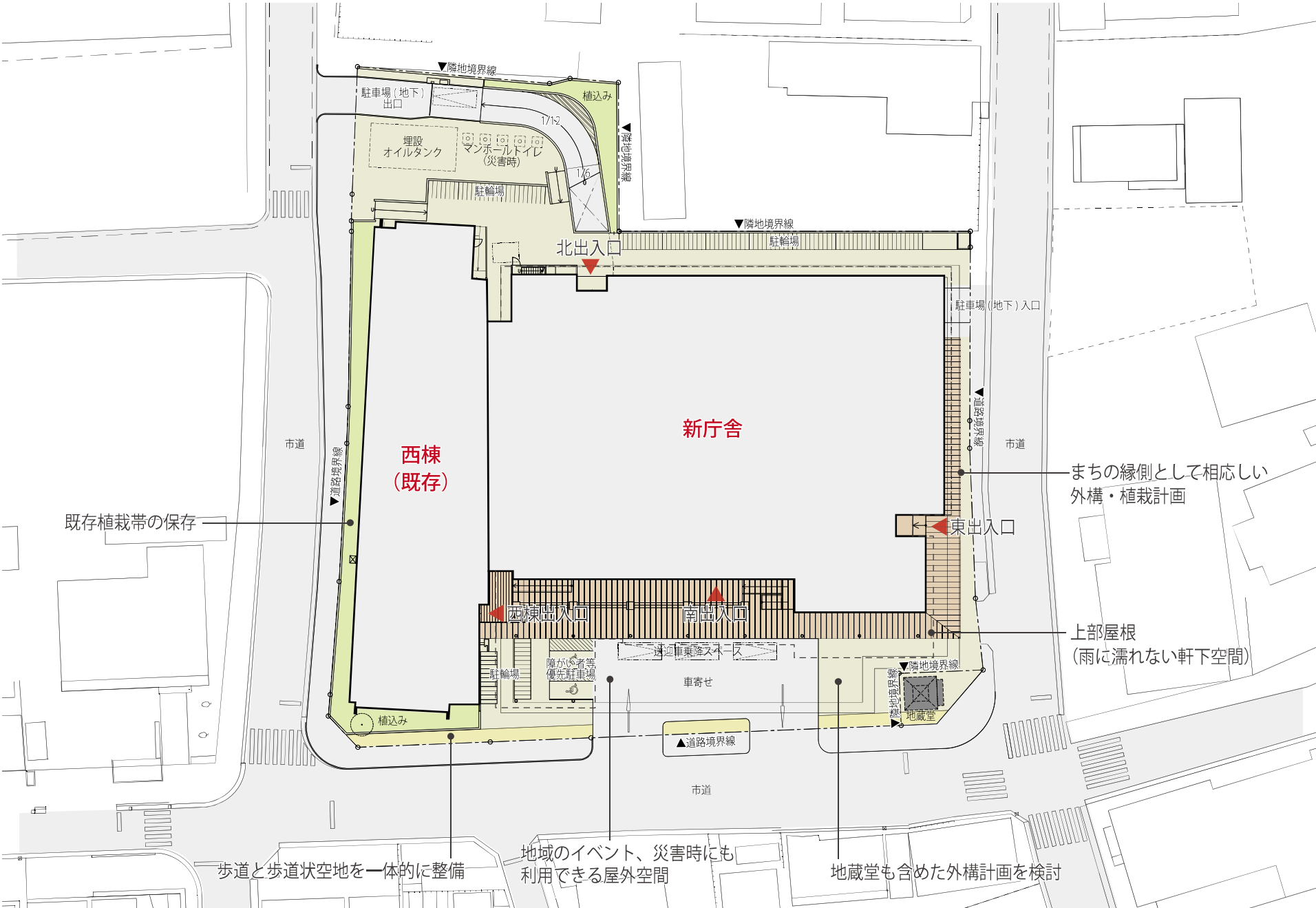
- ・マツなどを使用した草加市にふさわしい植栽計画とします。
- ・既存樹木についても、可能な限り移植を検討します。
- ・地蔵堂周囲には、四季の感じられる樹種を選定します。

段差のない免震エキスパンション

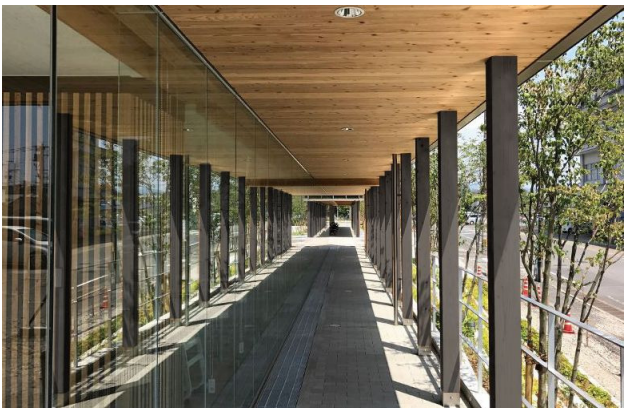
- ・本建物は免震建物のため、建物外周部にはエキスパンションジョイントが必要となりますが、可能な限り外構レベルと段差のない納まりとし、歩行者に配慮した計画とします。

雨水流出抑制・雨水排水計画

- ・草加市は地下水位が高く、雨水が浸透しにくいいため、雨水流出抑制は、貯留方式とします。
- ・地下ピットに雨水貯留槽を設け、トイレの洗浄水として利用します。



【市の木：マツ】



【雨に濡れない軒下空間イメージ】



【免震エキスパンション金物イメージ】